

賀川豊彦から考える コロナ禍と私たちの生活世界の変容

私たちは2020年よりコロナ禍によって新しい生活様式を模索せざるを得ない状況に陥っている。これは世界同時的な災厄であるという共通性の一方で、リモートワークに従事しつつ田園生活へと居を移す者もいれば、自粛の下で廃業する飲食業・旅行業者、さらには日々最前線でCOVID-19と闘いながら、疲弊する医療や福祉分野のエッセンシャル・ワーカーなど、その影響は多様である。各国の対策が必ずしも歩調を合わせたものとはなっていないことも、大きな問題となっている。WHOをはじめとした国際機関・国際社会の機能不全、さらには「生命か経済か」という残酷な問いなど、コロナ禍の私たちは人類史的にも極めて大きな難題に直面している。

第6回シンポジウムでは、コロナ禍での私たちの生活の変容、さらに賀川豊彦から何を学び、いかなる途を歩むべきかという大きなテーマを軸に、日本の農村社会を足場に協同組合史を論じる石田正昭氏（京都大学学術情報メディアセンター研究員）と、オランダ市民社会論を通して日本における公共圏形成の可能性を問う稲垣久和氏（東京基督教大学特別教授）が対論する。後半では、昨12月4日成立した労働者協同組合法により新しいステージへと歩みだした労協運動を代表して田嶋康利氏（日本労働者協同組合連合会専務理事）に加わっていただき、鼎談としてさらに議論を深める2時間としたい。

日時：2021年2月4日（木）18:00～20:00（場合によって30分ほどの延長あり）

会場：Zoom®を用いたオンライン開催

パネリスト：

石田正昭（京都大学学術情報メディアセンター研究員、三重大学名誉教授、前龍谷大学教授）

稲垣久和（東京基督教大学特別教授、同大学公共福祉研究センター長）

田嶋康利（協同総合研究所常任理事、日本労働者協同組合連合会専務理事）

司会進行：伊丹謙太郎（法政大学大学院連帯社会インスティテュート教授）

参加方法 **参加費無料** **申込みはこちらのフォームから**⇒ <https://ws.formzu.net/fgen/S19797125/>

* お申込後に、自動返信メールでzoomの入室情報をお送りします。

共催：賀川豊彦シンポジウム実行委員会、賀川豊彦記念松沢資料館、明治学院大学キリスト教研究所 賀川豊彦研究プロジェクト、法政大学・伊丹科研（課題番号：19K02182）

協賛：（一社）日本協同組合連携機構（JCA）、（株）キリスト新聞社、
東京基督教大学 公共福祉研究センター

タイムテーブル

18:00～	開催主旨説明（タイムテーブル、Zoom操作、質問方法など）
18:05～18:20	提題 石田正昭「総合JAにおける相互扶助について考える」
18:20～18:35	提題 稲垣久和「新自由主義に対抗する協同組合運動－賀川豊彦「神の国」運動の現代的視座」
18:35～19:00	対論 稲垣久和 vs. 石田正昭
19:00～19:10	対論へのコメント 田嶋康利
19:10～19:40	三者鼎談
19:40～	来場者を交えた質疑応答・会場討論
20:00	閉会（※質疑が白熱した場合は、一度閉会した上でそのまま延長して議論を続けます）

連絡先：賀川豊彦シンポジウム事務局 東京基督教大学 公共福祉研究センター

E-mail: kci@tci.ac.jp tel: 0476-46-1131 在宅勤務: 080-6550-3800（担当：高橋）